

議員と話す出前トーク報告書

開催日時	令和7年5月8日（木）19時00分～20時20分	
相手方	松阪市消防団嬉野分団（7名）・やまゆり分団（5名）	
開催場所	嬉野地域振興局 大会議室	
出席議員	広報広聴委員 森 遥香 ① 橘 大介 _____ ② 米倉 芳周 _____ ③ 坂口 秀夫 _____ ④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____	
	司会進行者	森 遥香
	報告者	森 遥香
	記録者	森 遥香
参加人数	相手方12名、議員4名	
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。	
報告者の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 15 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

報告者 森 遥香 _____

①消防団員同士の“横の繋がり構築”と、分団に割り当てられる予算について

●横の繋がり（団員同士の親睦）を深めにくいと感じている

昔は日中も地域で就業している方（農家や自営業など）が多く消防団に所属していたが、現在は9割方が勤め人となり、有給休暇を取って活動に参加している。働き方も多様で、日曜勤務の者もいる。また、下記理由もあり全員が一堂に会市親睦を深める機会が減少している。

●消防団報酬が個人口座への振込みとなり、分団としての予算確保に課題を感じている

親睦を深めたり、労いの為の茶・食事の費用を個人から徴収することは難しい。

また、少額の事務費・経費（ノートや絆創膏など）は都度事務局へ申請することが煩わしく、分団長など上役が負担している。

●横の繋がりがなくなった結果が成り手不足に繋がっていると考えている

自治会や町づくりにも言えることだが、人口減少による分母の減少に加え、旧来は消防団活動とも密接な関係であった地域の祭りや行事での繋がりも希薄となり、団員勧誘に繋がらないと考えている。

【意見交換】

議員▶飲み会費用は別として、お茶や事務費などは必要経費として予算どりを要望としては、相手方▶予算要望は行っていない。横の繋がり（食事会やお茶を飲む時間）が構築しづらい状況。大規模災害時には制服に着替えられず参集することも考えられる。特にコロナ禍を経て横の繋がりがなくなり、相互に顔が見えない状況で有事に円滑なコミュニケーションが取れない可能性があるのではと、危惧している。

議員▶どうなれば良いと思うか。

相手方▶伊賀市消防団は班と分団に予算の振り分けがあり、それと別に個人報酬が振り込まれていると聞いている。また、鈴鹿は団員1人に対して500円の予算が分団に予算として出ていると聞いている。“横の繋がり構築”のための予算があれば良いと思う。

議員▶個人的な経済負担が減ることは大切である。

相手方▶上役が自腹を切らなくて良くなれば、後任にも上役を安心して任せることができると思う。昼食などの必要経費も予算化したい。

議員▶改めて必要経費を洗い出し、市に対して予算化の要望を進めていく形はいかがか。

議員▶消防団活動において横の繋がりは大切である。分団長会議等では予算化の話は出ているか。分団長会議の場でも議題として出し、他の分団の意見も聞いてみては。

相手方▶現在は出していない。今後出していきたい。

議員▶市への要望など手伝えることがあれば行うのでぜひ引き続き意見を出してほしい。

② 大規模災害想定の実験だけでなく身近な防災活動を積み重ねたい

●身近な防災啓発

日頃の小さな活動が大きな事故を防ぐ。地震を想定した家具の固定に対し、行政からは業者への補助が出ているが、市民への旨みを増やしてみてもどうか。例えば、「家具の固定」「就寝時に枕元へ運動靴を置く」など身近な防災、減災活動を撮影し、窓口へ見せるとゴミ袋がもらえるようにするなど。

●市もしくは市議会と消防団のコラボレーションで身近な防災・減災力向上を狙いたい
最近の消防団の訓練では南海トラフなどの大型災害を想定した活動に重きを置いているが、昔のように地域に密着した活動を行いたため、何か行政とコラボレーションできないかと考えている。

③団員募集について

●団員としてのメリットを見出しづらいことが団員の成り手不足に拍車をかけている
現役世代は仕事や子育てに忙しい。自身としては報酬が欲しい訳ではないが、例えば地域の祭りにて、真夏の屋外で立ちっぱなしで4~5時間警備にあたり、3,500円の報酬のみ。お茶も出ない状況で、周りに団員募集の声かけをすることに気が引けてしまう。

④AED使用時の賠償責任についての心配

AED使用のため女性の着衣を脱がしたら訴えられた、という事案があった。裁判では無罪となっても、昨今は写真や動画でインターネット上に顔が掲載されたら社会的な風評被害などのダメージがとても大きいと考える。行政として、正しい知識の啓発など何かできないか。AED使用に関しても、臓器提供カードのように意思表示をしてほしいとさえ感じる。

⑤消防団のイメージの向上

多くの団員は地域を想う気持ちで活動しているが、世間では一部の消防団員が起こした飲酒事故などの不祥事が大きく取り上げられている。消防団のイメージアップとなる広報も考えていきたい。

⑥やまゆり分団

- 女性分団として、どのような活動が必要とされているのか悩ましい
- 夏休み前の救命救急講習がコロナ禍で休止となり、今も行っていない
- 若手の入団を促進したい

入団促進のための広報活動をしていきたいが、コロナ禍を経て活動機会が減少した。コロナ禍前はドンキホーテ嬉野店で防災減災啓発ブースを休日に行っていたが、コロナ禍で休止となり、現在も活動が再開していない状況。現在は「おおきん祭り」での啓発活動がメイン。

- 市町合併によって減った活動がある

合併前は民生委員の紹介を受け、消防署員と共に町内独居老人宅の訪問を行っていた。現在は個人情報保護の機運が強く情報が得られなくなり、この活動は無くなった。特に山間の地域の方は訪問を楽しみにしている方も多かった。何か情報をもらえる形があれば嬉しい。

【意見交換】

議員▶コロナ禍後の活動再開の希望を消防団事務局に申し出てみてはいかが。我々議員も帯同して事務局へ行くこともできる。また、広報活動の場としては嬉野地域でマルシェを開催する団体などに連絡を取り、その場で啓発ブースを設けるための顔繋ぎもできるので、ぜひ頼ってほしい。

報告者所感

○ファシリテーションの重要性について

開始前、直後は緊張感が漂っていたが、方面団長に話を振り、その後順に話を振って行ったところ徐々に緊張も緩まり、12名全員の方にお話をさせていただくことができた。いかに全員に話をしてもらえるかを采配した上で、時間を超過しない形で時間配分を考えることが、申込者一人一人の満足度に繋がると考える。

○内容について

現行の法律の中で、できること・できないことを整理することが大切である。また、話をしていく中で課題の本質や解決法が見えてくる内容であったと感じた。今回、市議会とコラボレーションして身近な防災・減災活動を行いたいとの声もいただいた。この出前トークがきっかけとなり、新たな市議会の活動が生まれるように繋がっていきたい。

議員と話す出前トークの様子

